

琵琶湖の保全及び再生に関する施策の実施状況

- 琵琶湖保全再生施策に関する計画(第2期) 関連事業予算
- 琵琶湖を「守る」、「活かす」、「支える」取組

滋 賀 県

琵琶湖の保全及び再生に関する施策の実施状況

■ 琵琶湖保全再生施策に関する計画(第2期) 関連事業予算 ----- P 2

『守る』

- 水産資源の回復の取組 ----- P 7
- 外来魚対策の取組 ----- P 8
- 侵略的外来水生植物対策 ----- P 9
- カワウ対策 ----- P10
- 琵琶湖の水草等クリーンアップ事業 ----- P11
- 早崎内湖再生事業 ----- P12

『活かす』

- やまの健康 2.0 ----- P13
- 滋賀ならではのツーリズム「シガリズム」の推進---- P14
- 世界農業遺産を生かした農林水産業の魅力発信----- P15

『支える』

- 国立環境研究所連携推進事業 ----- P17
- マザーレイクゴールズ（MLGs）推進事業 ----- P18

琵琶湖保全再生施策に関する計画(第2期) 関連事業予算

(単位:千円)

	令和5年度当初予算額 A					令和6年度当初予算額 B					増 減 B-A				
	予算額	財 源 内 訳				予算額	財 源 内 訳				予算額	財 源 内 訳			
		国費	起債	その他	一般財源		国費	起債	その他	一般財源		国費	起債	その他	一般財源
3 琵琶湖の保全および再生のための事項	35,988,227	14,245,031	6,224,777	13,206,943	2,311,476	38,090,907	15,525,932	6,712,463	13,632,746	2,215,916	2,102,680	1,280,901	487,686	425,803	▲ 95,560
(1) 水質の汚濁の防止および改善に関する事項	20,251,124	6,887,748	2,156,464	11,049,163	157,749	22,282,238	8,092,575	2,506,763	11,521,509	161,391	2,031,114	1,204,827	350,299	472,346	3,642
(2) 水源のかん養に関する事項	10,077,687	5,088,208	3,000,500	982,476	1,006,503	10,301,624	5,254,384	3,088,400	970,432	988,408	223,937	166,176	87,900	▲ 12,044	▲ 18,095
(3) 生態系の保全および再生に関する事項	1,430,976	282,217	230,900	307,112	610,747	1,135,404	167,331	187,000	257,363	523,710	▲ 295,572	▲ 114,886	▲ 43,900	▲ 49,749	▲ 87,037
(4) 景観の整備および保全に関する事項(※再掲)	196,485	0	22,500	0	173,985	198,951	0	22,500	0	176,451	2,466	0	0	0	2,466
(5) 農林水産業、観光、交通その他の産業の振興に関する事項	4,228,440	1,986,858	836,913	868,192	536,477	4,371,641	2,011,642	930,300	883,442	542,407	143,201	24,784	93,387	15,250	5,930
4 琵琶湖保全再生施策の実施に資する調査研究に関する事項	414,293	79,822	0	148,716	185,755	401,050	53,227	0	149,724	198,099	▲ 13,243	▲ 26,595	0	1,008	12,344
5 琵琶湖保全再生施策に取り組む主体 その他琵琶湖保全再生施策の推進体制の整備に関する事項	106,347	5,225	0	38,204	62,918	109,435	5,225	0	39,567	64,643	3,088	0	0	1,363	1,725
6 琵琶湖保全再生施策の実施に資する 体験学習を通じた教育その他の教育の充実に関する事項	746,041	23,824	0	287,351	434,406	916,046	17,637	0	440,325	458,034	170,005	▲ 6,187	0	152,974	23,628
合 計 (※)	37,254,908	14,353,902	6,224,777	13,681,214	2,994,555	39,517,438	15,602,021	6,712,463	14,262,362	2,936,692	2,262,530	1,248,119	487,686	581,148	▲ 57,863

※「3 (4) 景観の整備および保全に関する事項」については再掲。「合計」については、再掲を除いている。

「琵琶湖保全再生施策に関する計画(第2期)」 令和6年度関連事業予算 【予算額 約395億円】

■ 主な増額要因:

3(1) 水質の汚濁の防止および改善に関する事項

・流域下水道事業における汚泥燃料化施設建設工事、汚泥脱水設備更新工事の工事本格化による事業費の増・・・**約19億円の増額**

3(5) 農林水産業、観光、交通その他の産業の振興に関する事項

・農業水利施設の整備・更新を行う県営かんがい排水事業における国予算(交付金)を積極的に活用した事業進捗に伴う増・・・**約2億円の増額**

・県営農地防災事業において、ため池整備事業の新規採択地区の増加に伴う事業費の増・・・**約2億円の増額**

・森林資源の循環利用の促進を図る未来へつなぐ木の良さ体感事業における木育拠点施設の整備工事に伴う増・・・**約1.2億円の増額**

■ 主な減額要因:

3(3) 生態系の保全および再生に関する事項

・早崎内湖再生事業において工事を実施しないことに伴う減・・・**約1億円の減額**

3(5) 農林水産業、観光、交通その他の産業の振興に関する事項

・県営経営体育成基盤整備事業において国補正予算の積極的な活用と前倒し等を行ったことによる減・・・**約2億円の減額**

琵琶湖を「守る」ことと「活かす」ことの好循環の創出

「琵琶湖保全再生施策に関する計画(第2期)」令和6年度関連予算 【予算額 39,516百万円】

<内 訳>

●水質の汚濁の防止および改善	22,282百万円	●農林水産業、観光、交通その他の産業の振興	4,371百万円
●水源のかん養	10,301百万円	●施策の実施に資する調査研究	401百万円
●生態系の保全および再生	1,135百万円	●施策に取り組む主体、推進体制の整備	111百万円
●景観の整備および保全に関する事項(※再掲)199百万円		●施策の実施に資する体験学習を通じた教育、その他	915百万円

※「景観の整備および保全に関する事項」については再掲。「合計」については再掲を除いている。

計画の重点事項

琵琶湖を「守る」ことと「活かす」ことの好循環をさらに推進

琵琶湖を『守る』取組

水質汚濁の防止対策

水源林整備保全、鳥獣害対策

生態系・生物多様性保全、外来生物対策

水草対策、プラスチックごみ対策

水産資源の回復

琵琶湖を『活かす』取組

やまの健康、しがの林業成長産業化

環境こだわり農業のブランド力向上

環境関連産業の振興

琵琶湖漁業の持続的発展

琵琶湖の活用推進

琵琶湖を『支える』取組

調査研究
(気候変動の知見収集含む)

多様な主体による協働

環境教育・学習
広報・啓発

琵琶湖を『守る』取組

水質汚濁の防止対策

- 流域下水道事業 (12,792百万円)
- 農業集落排水事業 (113百万円)
- 補助河川環境整備事業 (104百万円)
- 生活排水対策推進事業費 (15百万円)



更新工事実施している
湖南中部浄化センター

◆外来魚を除く琵琶湖漁獲量

H29: 713t、H30: 770t、R1: 811t、R2: 759t、
R3: 670t

◆オオバナミズキンバイ生育面積(年度末時点)

H29: 7.9万㎡、H30: 3.2万㎡、R1: 3.8万㎡、
R2: 3.2万㎡、R3: 2.4万㎡、R4: 5.0万㎡

水源林整備保全、鳥獣害対策

- 補助治山事業 (1,550百万円)
- 県営農地防災事業 (1,470百万円)
- 世代をつなぐ農村まると保全向上
活動支援交付金 (994百万円)
- 陽光差し込む健康な森林づくり事業 (432百万円)
- 補助林道事業 (146百万円)
- 湖国の森林と自然を守るニホンジカ
特別対策事業 (114百万円)
- 鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業 (118百万円)
- 災害に強い森林づくり事業 (12百万円)

生態系・生物多様性保全、外来生物対策

- 侵略的外来水生植物
戦略的防除推進事業 (191百万円)
- 早崎内湖再生事業 (53百万円)
- 有害外来魚ゼロ作戦事業 (23百万円)
- ヨシ群落保管理事業 (12百万円)
- カワウ銃器捕獲モデル事業 (16百万円)
- カワウ広域管理捕獲実施事業 (9.5百万円)



カワウの群れ

水草対策、プラスチックごみ対策

- 水草刈取事業 (222百万円)
- 補助河川総合流域防災事業 (21百万円)
- 散在性ごみ啓発事業 (15百万円)
- プラスチックごみ対策事業 (4.7百万円)



水草刈取事業

水産資源の回復

- 種苗放流事業(アユ、ニゴロブナ、ビワマス等の放流) (84百万円)
- 「琵琶湖漁業再生ステップアップ」
プロジェクト (39百万円)
- 水産資源の最大活用に向けた
スマート水産業体制整備事業 (4.0百万円)

琵琶湖を『活かす』取組



林業就業体験講習

◆木材生産

県産材の素材生産量(令和4年) 98,800㎡

◆琵琶湖と共生する農林水産業

令和4年7月に『世界農業遺産』に認定された。

やまの健康、しがの林業成長産業化

- 未来へつなぐ木の良さ体感事業 (290百万円)
- 森林・林業人材育成事業 (58百万円)
- しがの林業・木材産業強化対策事業 (12百万円)
- 「やまと都市をつなぐ」森林山村地域活性化事業 (10百万円)

環境こだわり農業のブランド力向上

- 「きらみずき」みんなでブランド化推進プロジェクト (33百万円)
- 「世界農業遺産」プロジェクト推進事業 (17百万円)
- オーガニック農業等産地育成事業 (18百万円)
- 魚のゆりかご水田米魅力発信強化事業 (3.4百万円)
- 健康志向に対応したオーガニック茶産地育成事業 (3.0百万円)
- 琵琶湖とつながる生きもの田んぼ物語創造プロジェクト
(魚のゆりかご水田の普及拡大等) (2.2百万円)
- 環境こだわり農産物等流通・販売強化事業 (2.0百万円)

環境関連産業の振興

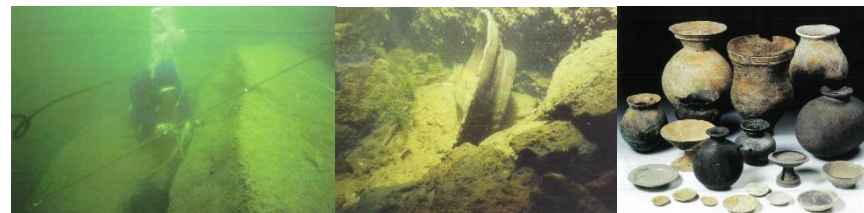
- 滋賀ウォーターバレー・水環境ビジネス推進事業 (38百万円)
- 水草等対策技術開発支援事業 (10百万円)

琵琶湖漁業の持続的発展

- しがの漁業担い手フルサポート事業費 (16百万円)
- 多様で革新的な流通モデル実践事業 (10百万円)
- びわ湖のめぐみ食文化継承促進事業 (7.7百万円)
- 県がセールス担当として“湖魚”のPR・消費拡大に取り組む事業 (7百万円)
- 漁協経営基盤強化対策事業費 (7百万円)
- 二ゴロブナ生残率向上条件解明研究事業費 (3.2百万円)
- 琵琶湖漁業ICT化推進調査事業費 (1.8百万円)

琵琶湖の活用推進

- ビワイチ観光推進事業 (42百万円)
- 首都圏ネットワーク活用事業 (7.9百万円)
- 「びわ湖の日」活動推進事業 (8.7百万円)
- 日本遺産・琵琶湖魅力発信事業 (4.1百万円)
- 新 ● 琵琶湖に眠る水中遺跡魅力発掘・発信事業 (0.6百万円)



湖底遺跡の水中調査と出土土器

琵琶湖を『支える』取組

調査研究

- 国立環境研究所連携推進事業 (53百万円)
- 気候変動が琵琶湖の水質・生態系にもたらす影響と適応策に関する研究 (56百万円)
- 西の湖における水質改善実証モデル事業 (15百万円)
- 琵琶湖環境に係る連携研究の推進 (19百万円)
- ネットゼロ社会実現にむけた自然資本活用のための地域づくりに関する研究 (9.7百万円)
- グリーンインフラの推進に向けた河川流域が有する
多様な機能の把握とその保全再生に関する研究 (7.0百万円)
- 「滋賀の水産業強靱化プラン」推進研究 (3.7百万円)
- 琵琶湖沿岸の自然再生と生態系の現状評価 (3.1百万円)
- 湖底耕耘による漁場生産力向上実証研究 (0.7百万円)

多様な主体による協働

- 協働の森づくりの啓発事業 (16百万円)
- マザーレイクゴールズ推進事業 (13百万円)
- 琵琶湖保全再生計画推進事業 (1.1百万円)

環境教育・学習、広報・啓発

- びわ湖フローティングスクール事業 (339百万円)
- 森林環境学習事業 (123百万円)
- 琵琶湖博物館展示事業 (94百万円)
- 湖沼問題の解決に向けた国際協力と情報発信 (7.2百万円)
- 自然体験を通じた環境学習推進事業 (5.0百万円)
- 地球温暖化防止活動推進センター運営事業(出前講座) (3.3百万円)

◆国立環境研究所琵琶湖分室等との連携推進

◆マザーレイクゴールズ推進体制の構築等多様な主体との協働推進



湖底の貧酸素化への対応
(水中ロボットを用いた湖底調査)



「マザーレイクゴールズ(琵琶湖版SDGs)」の推進



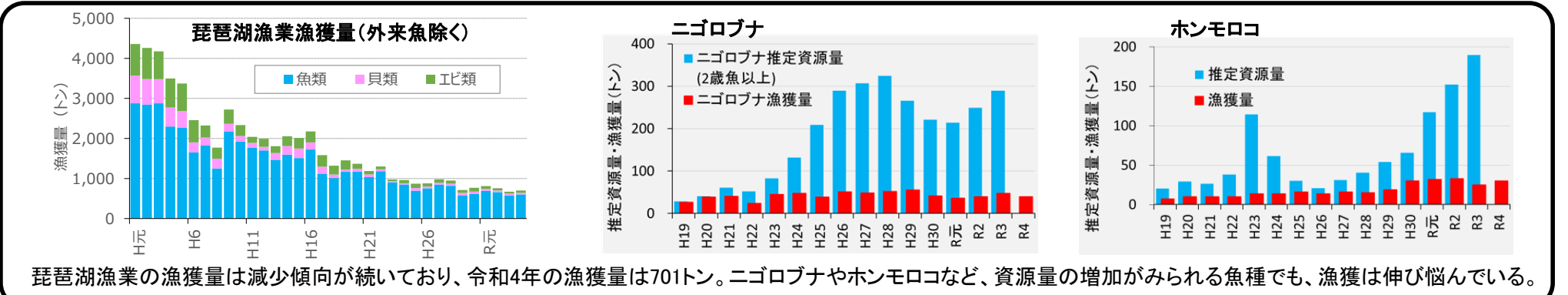
琵琶湖保全再生推進協議会幹事会による
琵琶湖現地視察



第19回世界湖沼会議における
ミシガン州との共同での情報発信



森林環境学習「やまのこ」



水産資源回復のため、漁場環境の整備や種苗放流を実施

- 砂地造成(セタシジミ)・・・琵琶湖南湖で砂地造成＋稚貝放流
これまでに約83haを造成(R5年度末)
砂地造成区域の水草除去および湖底耕耘により湖底環境の維持に努め、シジミ資源の回復を進めている
- ヨシ帯造成(ニゴロブナ)・・・魚類の産卵繁殖機能を考慮して整備
これまでに約36haを造成(R5年度末)
 - ・奥行きを30m以上で琵琶湖の水位変動に対応
 - ・琵琶湖基準水位マイナス30～50cmの緩勾配で造成
- 水産多面的機能発揮対策事業
漁業者を中心とする各地域の組織により、湖底耕耘や過剰に繁茂した水草の根こそぎ除去およびヨシ帯の保全活動(浮遊ゴミや競合植物の除去)を実施。
- 魚のゆりかごである南湖の再生
現在、南湖は水草の大量繁茂や外来魚が優占する魚類相が一定解消されつつあり、ホンモロコやニゴロブナなど在来魚介類の再生産の場としての重要性が高まっている。引き続き、関係機関が統合的に事業を継続し、環境保全対策に取り組むことが重要。

- 種苗放流 (R5実績)

①ニゴロブナ	全長 20mm	1,052万尾
	全長120mm	113万尾
②アユ	全長 5mm	38億尾
③セタシジミ	殻長0.3～0.4mm	2,580万個
④ビワマス	全長 60mm	52万尾
⑤ウナギ	体重 50g	1トン
⑥ワタカ	全長 50mm	10万尾
⑦ゲンゴロウブナ	全長 20mm	7万尾
- 近年のアユの漁獲状況
 - ・R5年のアユ漁は、全体として低調で、特に3月から5月上旬にかけて、不漁の傾向が著しかった。
 - ・R6年のアユ漁も、全体として低調であった。これはR5年秋の河川の高水温により産卵量が大きく減少し、資源が低迷したことによる影響。
- 漁場環境の新たな課題
 - ・近年、アユ、ホンモロコ、セタシジミ等の水産資源に成長不良や栄養状態の悪化が認められる年がある
→漁場生産力の低下が懸念される



ニゴロブナ



ホンモロコ

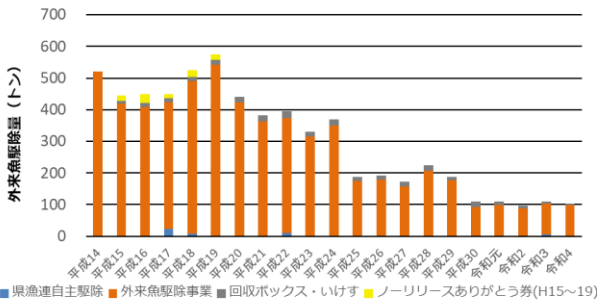


アユ産卵用人工河川

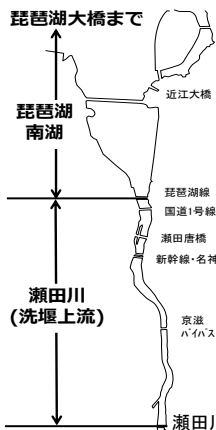
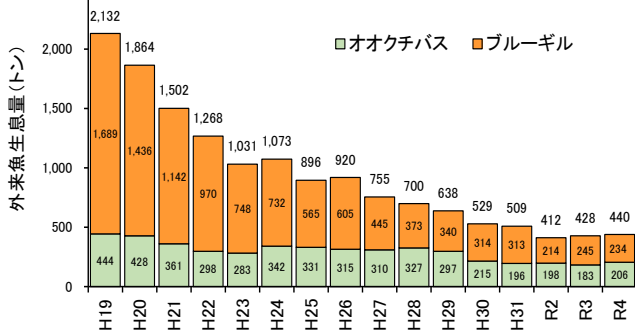
施策実施状況（滋賀県）

外来魚対策の取組

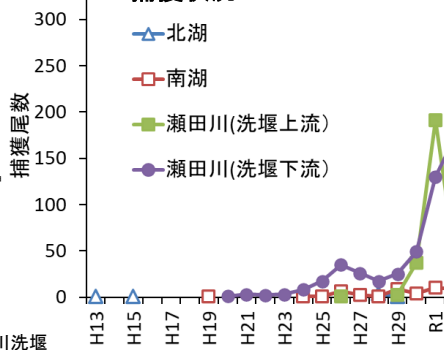
外来魚駆除量の推移



外来魚推定生息量



チャネルキャットフィッシュの捕獲状況



オオクチバスやブルーギルなどの外来魚の生息量は、平成19年の2,132トンから令和4年は440トンと着実に減少させることに成功しているが、ブルーギルに比べ、オオクチバスの減少傾向は緩やかとなっている。また、チャネルキャットフィッシュが瀬田川を中心に増加傾向。

琵琶湖における生態系や漁業への被害を防止するため、徹底的な防除を実施

○駆除促進対策事業・・・

漁業者による外来魚捕獲に要する経費の補助
捕獲した外来魚の回収および適正処理に要する経費の補助
チャネルキャットフィッシュの緊急駆除

○外来魚産卵期集中捕獲事業・・・琵琶湖南湖などで産卵期に外来魚を集中駆除するための電気ショッカーボートの運用・維持管理

○外来魚駆除対策検討会事業・・・効果的な駆除を実施するための進行管理

○外来魚駆除対策研究・・・効率的な駆除技術の開発

○「琵琶湖のレジャー利用の適正化に関する条例」により、釣り上げた外来魚のリリースを禁止し、回収ボックス、回収いけすを設置して回収



漁業者による捕獲(刺網)



電気ショッカーボートによる捕獲



回収した外来魚



回収ボックス

施策実施状況（滋賀県）

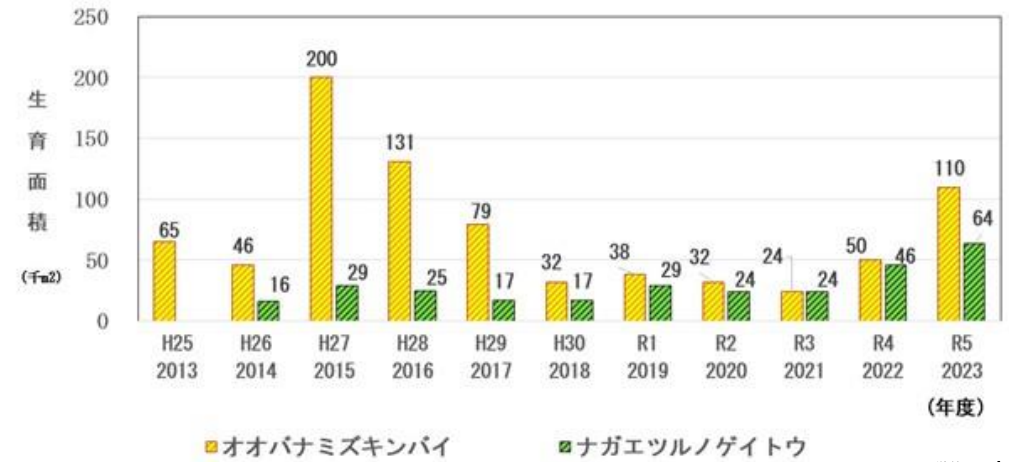
侵略的外来水生植物対策

(1) 侵略的外来水生植物：オオバナミズキンバイとナガエツルノゲイトウ

- ・**速い成長速度**
広大なマット状に群落を成長させ水面を覆う
- ・**高い分散能力**
茎・葉の断片から別個体として成長（栄養繁殖）
水とともに各所に運ばれて分布を拡大
（オオバナは種子繁殖も行い水鳥による分散も）
- ・**柔軟な生態**
陸上に運ばれても生存し続ける（水陸両生）



(2) 生育状況の経緯 外来水生植物の年度末残存面積



区分			(主な例)	重点 対策 箇所	オオバナ			ナガエ			2種計		
					R4末	R5末	増減	R4末	R5末	増減	R4末	R5末	増減
分散リスク 高い	駆 除 可 能		(河川、水路、港湾、 樋門、水門)	◎	2.9	5.0	2.1	5.2	7.9	2.7	8.1	12.9	4.8
	駆 除 困 難		(浮き産卵床)	×	3.2	3.3	0.1	0.2	1.0	0.8	3.4	4.3	0.9
分散リスク 低い	駆 除 可 能	伊庭内湖	(内湖、ため池)	○	13.3	47.9	34.6	0.4	0.4	0.0	13.7	48.3	34.6
		その他		△	4.6	3.5	▲ 1.1	4.0	6.3	2.3	8.6	9.8	1.2
	駆 除 困 難		(ヨシ植栽地内部、 石積み腹岸)	×	26.5	50.3	23.8	36.5	48.7	12.2	63.0	99.0	36.0
合 計					50.5	110.0	59.5	46.3	64.3	18.0	96.8	174.3	77.5

(3) 令和5年度の取組

- ①巡回・監視・駆除等
・琵琶湖および周辺水域において、分散リスク(他のエリアへの流出しやすさ)が高い箇所を重点的に対象とした、巡回・監視・早期駆除の実施。
（駆除量：業者委託分 約236t、漁協委託分 約5t）

・モニタリングのための生育状況調査の実施。

・日光を遮断して枯死させる「遮光シート」の敷設。

・オオバナをロール状に巻いて水中に押し込み、現場で枯死させる「淀川方式」の実施。
- ②協働事業
・国(近畿地方環境事務所、近畿地方整備事務所)や、水資源機構、活動団体等と協働した駆除の実施。
- ②農地侵入対策
・関係機関と連携した、営農者へ普及・啓発



(4) 現状評価

- ・侵略的外来水生植物の年度末残存面積については、近年は県全体で50千㎡前後を維持してきたが、令和5年度は17万4千㎡に増加。
- ・ただし、その主な要因は、伊庭内湖(4万8千㎡)やヨシ植栽地内部等の駆除困難地(9万9千㎡)といった、他の水域に分散するリスクが比較的低い場所で局所的に増加したことによるものであり、重点的に対策業務を実施している港湾や樋門等の分散リスクが高い場所では、生育面積の増加は一定の規模に抑制。

(5) 今後の対応

- ・県全体として低密度状態の維持を図っていくため、分散リスクや社会経済活動等への影響等を踏まえ、多様な主体と連携し、メリハリをつけて効率的かつ効果的な対策を実施。

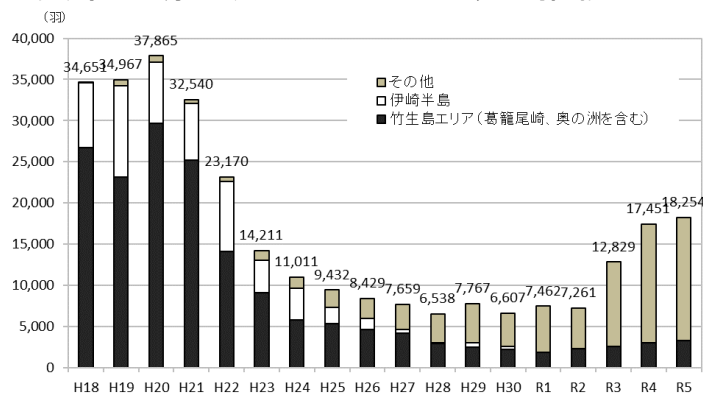
施策実施状況（滋賀県） カワウ対策

(1) カワウ

- ・1日に約500gの魚類を捕食 ← 漁業への影響大
- ・集団で生活 ← 鳴き声や糞害などの生活環境、高い繁殖力 糞の付着や枝折りなどの植生への影響大



(2) 滋賀県春期(5月)カワウ生息数の推移



H18～H25ごろは主に竹生島エリアや伊崎半島に集中して生息

H25～H28ごろはその他のエリアの生息数も徐々に増加

H29～河川沿いのコロニーを中心に生息数が急増

従来の対策だけでは対応が困難な状況、かつ、全国でも事例が少なく、対策の知見が十分ではない大規模なコロニーでの対策が必要

(3) 滋賀県の取組の一例

●継続している取組 竹生島における銃器捕獲

【財源】 鳥獣被害総合対策交付金(農水省)

【事業費】 5,883千円(R5)

【事業概要】

繁殖初期にエアライフルを使用し、主に成鳥を捕獲する。

【結果(速報)】

10日間捕獲を実施し、2,811羽を捕獲



●新たな取組

安曇川における住宅近くでの銃器捕獲のマニュアル整備等

【財源】 鳥獣被害総合対策交付金(農水省)

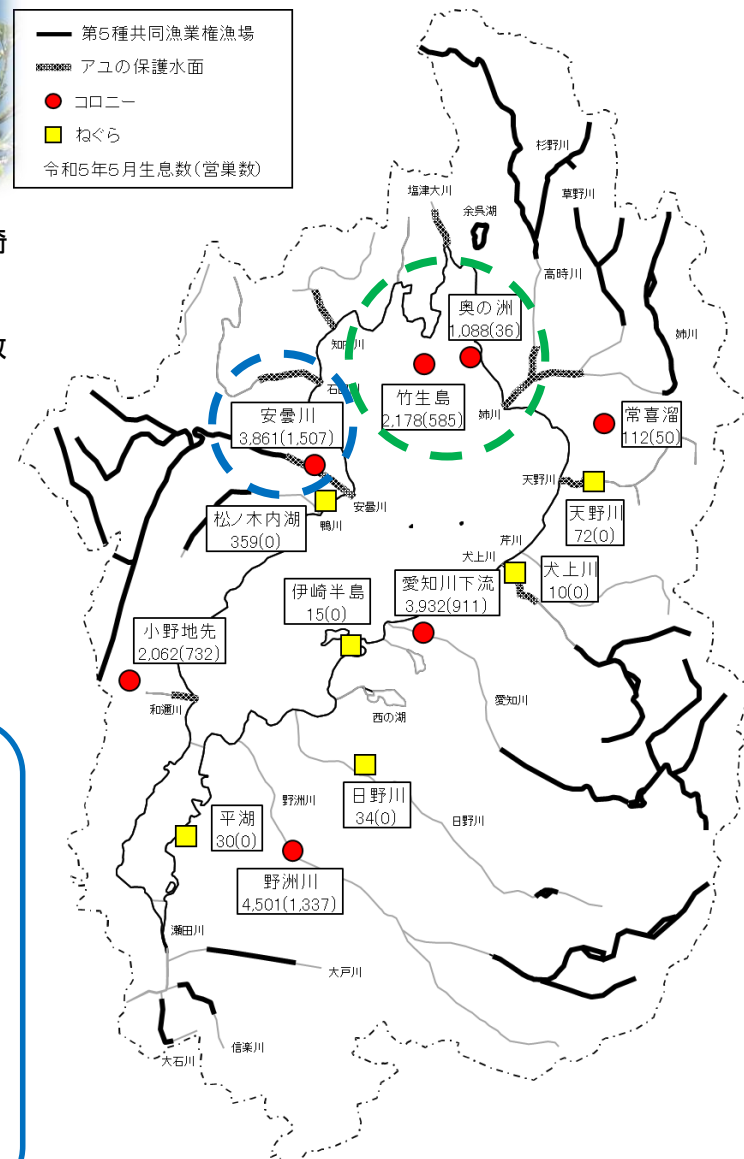
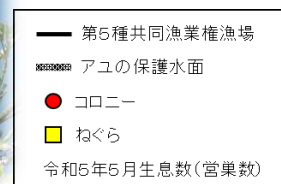
【事業費】 8,707千円(R5)

【事業概要】

住宅近くでの銃器捕獲に係るマニュアル整備、試行的な捕獲、捕獲による影響をモニタリング調査。

【結果(速報)】

6日間捕獲を実施し、2,474羽を捕獲

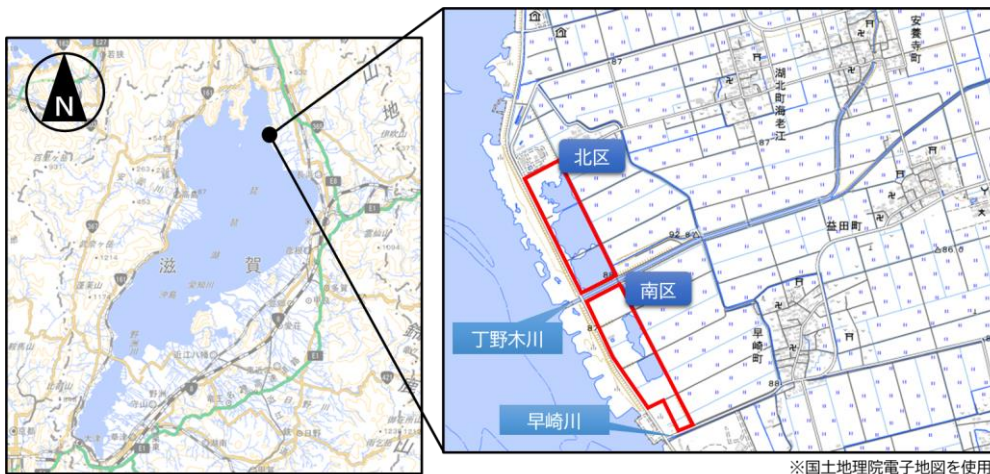


概要

内湖などの湿地帯（エコトーン）は、琵琶湖固有の動植物、特に在来魚の産卵繁殖場として重要な役割を担うなど様々な価値を有している。

本事業は「琵琶湖保全再生施策に関する計画（第2期）」等に基づき、干拓事業により消失した早崎内湖において、内湖本来の機能の保全と再生を推進することを目的として実施している。

本事業は国定公園である琵琶湖の生態系を含めた自然環境の保全につながる事業であることから、事業費の一部に自然環境整備交付金（環境省）を活用している。（国費：45%、県費：55%）



出典：国土地理院
出典：河川3月号, 2002年3月 (社)日本河川協会
出典：河川3月号, 2002年3月 (社)日本河川協会
出典：国土地理院

経年変化 航空写真（青線：昔の内湖境界 赤線：事業範囲）

整備方針

【北区】

なるべく自然の状態を維持できるように人の手を加えず、**魚介類等の産卵、生育の場となるよう「自然環境を保全する場」として再生。**

【南区】

人々が憩いの場や環境学習の場、湿地を体験できる場等として内湖を利用し、人々と内湖との関係を再構築する場として再生。

現状

本事業は段階的に進め、事業の結果をモニタリングしながら必要に応じてその結果を事業にフィードバックする順応的管理で整備を進めている。

平成13年度から試験湛水を開始した結果、極めて良好な生物生息環境が再生されてきた。

恒久的な内湖化を図るため、平成25年度に用地（20ha）を取得し、平成29年度から内湖の北側である北区（10ha）から内湖化整備を開始している。

今年度から北区については令和7年度完成に向け仕上げの工事に着手しており、南区については地元住民等で構成される早崎内湖再生保全協議会と協議しながら、詳細計画の策定を進めている。

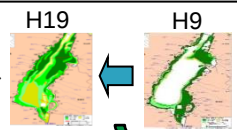
なお、本事業は令和15年度完成を予定している。



背景

水草の大量繁茂および侵略的外来水生植物の生育は、特に南湖において生活環境や漁業さらには生態系にも多大な影響を与えており、適正な状態に管理することが課題となっている。このことから、関係機関連携による集中的な水草除去などによる改善を図るとともに、侵略的外来水生植物の徹底的な駆除や駆除済み区域の巡回・監視を行う。さらに、企業や大学などへ対策技術開発を求め、水草等対策の高度化を図る。これらを通じて、望ましい水草の状態を目指すとともに、侵略的外来水生植物を管理可能な状況にまで減少させ、南湖の生態系・漁業の再生につなげる。

水草の大量繁茂
・悪臭、航行障害
・底層酸素濃度低下、
生態系への影響



望ましい水草
の状態
1930～50年代

主要な事業の概要

1 暮らしを守るための除去

夏季の水草大量繁茂による航行障害や悪臭などの生活環境への悪影響を軽減するため、緊急性や公共性の高いところから表層刈取りを実施する。

- 1-1 水草刈取事業（琵琶湖保全再生課） 1-2 矢橋帰帆島中間水路維持管理業務（下水道課）
（一部根こそぎ除去）

2 生態系保全のための除去

湖流の停滞、湖底の泥化など自然環境や生態系への悪影響を改善するため、根こそぎ除去を実施する。

- 2-1 水草除去事業（琵琶湖保全再生課） 2-2 補助河川総合流域防災事業（流域政策局）

3 漁場再生のための除去

水草除去や種苗放流を強化して、漁場の再生を図り、在来魚介類資源の回復を目指す。

- 3 琵琶湖漁業再生ステップアッププロジェクトの一部として実施（水産課）

4 侵略的外来水生植物の除去

オオバナミズキンバイ等の外来水生植物の徹底的な駆除や駆除済み区域の巡回・監視を行い、管理可能な状況にまで減少させる。

- 4-1 侵略的外来水生植物戦略的防除推進事業（自然環境保全課）
4-2 琵琶湖漁業再生ステップアッププロジェクトの一部として実施（水産課）

5 知見等を活かす

水草たい肥の有効活用を図ることや、企業や大学などが実施する、水草等対策の新たな技術等の開発や研究等の支援を行うことなどで、水草等対策の高度化を図る。

- 5-1 水草等対策技術開発支援事業（琵琶湖保全再生課） 5-2 水草資源循環促進事業（琵琶湖保全再生課）

たい肥化等

焼却等処分

高度化



森林の適正管理、林業の成長産業化、農山村の活性化が一体となった取組を進めるとともに、県産材利用促進条例をふまえ、やまの資源をフル活用した、環境と経済が両立する滋賀らしいグリーン成長の実現を目指す

森林

の適正管理

森林の価値の見える化

- 新**関西広域連合と連携した「森林の価値」の研究

「新しい林業」構築モデル事業

- 花粉発生源対策を踏まえた主伐・再造林（※一部R5補正予算対応）
- 新**気象データと航空レーザ解析データを用いたゾーニングによる主伐重点地区の検討
- ・少花粉苗木増産と再造林による発生源抑制対策

- ICT林業

- 新**林業機械メーカー連携による先端技術を活用した主伐・再造林
- 新**川上から川中までのリアルタイムでの素材生産情報の共有化

- 新たな森林管理の構築

- 新**長期的視点で山づくりを行うための信託制度の導入

- 重点的な人材育成

- ・主伐・再造林におけた一貫作業システムの確立とICT林業に対応した従事者の育成

建築物の木造化・木質化

- 琵琶湖森林づくり県民税の1%を活用して木質化100%へ（県が整備する建築物）
- 木造建築セミナーの開催、**新**木造建築物事例集の作成（民間等が整備する建築物）

木育拠点施設整備 ※近江富士花緑公園の魅力向上

- 木とふれあうことにより自然とのつながりを学び、豊かな心を育む木育を推進

造林公社のあり方検討

- これまでの公社経営について総括し、今後の分収造林事業のあり方や経営のあり方について検討



ドローンによる資材運搬



ICTハーベスタ



少花粉苗木



木造化・木質化例



木育拠点施設イメージ

林業

の成長産業化



農山村

の活性化



「シガリズム」の提供を通じて、よりよい地域社会が実現し、 持続可能な観光を推進する滋賀県を目指す

シガリズム ～心のリズムをととのえる旅へ～

● シガリズムコンテンツの創出、効果的な情報発信

※シガリズムとは、「琵琶湖をはじめとした自然と歩みをそろえ、ゆっくり、ていねいに暮らしてきた、滋賀の時間の流れや暮らしを体感できる、“心のリズムを整える新たなツーリズム”」の総称。

フィッシャーアーキテクト 漁体験



ビワコパールサプライズ 核入れ体験

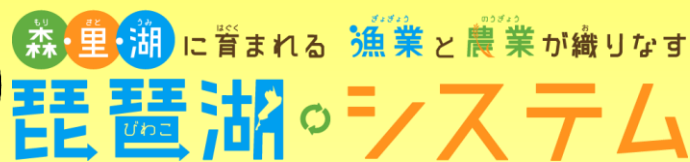


誰もが楽しめるビワイチ

- レンタサイクルの利便性向上など、受入環境の整備
- 「ビワイチの日、ビワイチ週間」の取組等によるビワイチの魅力向上
- 国内外に向けたビワイチ、ビワイチ・プラスの魅力発信
- 全国最初の自転車観光条例



世界農業遺産



世界農業遺産は、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり発達し、形づくられた伝統的な農林水産業とそれに関わって育まれた文化、景観、生物多様性などが一体となった**世界的に重要な農林水産業システム**を国連食料農業機関（FAO）が認定する仕組みです。

本県では、水田営農に支えられながら発展してきた伝統的漁業を核とした「琵琶湖と共生する農林水産業」を「森・里・湖（うみ）に育まれる 漁業と農業が織りなす琵琶湖システム」と呼んでおり、令和4年7月18日にFAOから「世界農業遺産」に認定されました。

漁業

伝統的な琵琶湖漁業

千年以上の歴史を持つエリ漁は、魚の習性を利用し、「つぼ」と呼ばれる部分で漁獲します。必要なサイズ・量だけを漁獲できる持続可能な漁法として、現代に受け継がれています。



琵琶湖のエリ（定置網）と湖岸に広がる水田



農業

環境に配慮した農業

琵琶湖の水質や生態系を守るため、排水を管理し農薬や化学肥料を減らす「環境こだわり農業」やオーガニック農業、琵琶湖から田んぼに遡上して産卵する湖魚を支える「魚のゆりかご水田」などが営まれています。

林業

水源林の保全

水源林の保全には、漁業者や地域住民も参画しています。山に木を植えて育てることが洪水や渇水を防ぐことに役立っているほか、川に上って産卵する湖魚の繁殖環境の保全にもつながっています。



水源林保全活動



鮒ずし



すし切り神事

食文化

伝統的な食文化とお祭り

「鮒ずし」に代表される湖魚をご飯に漬け込んで発酵させる保存食「なれずし」は、贈り物や祭礼のお供えにも使われてきました。こうした食文化や祭礼は、地域の絆の醸成にもつながっています。

琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業は、国連の定めた持続可能な開発目標（SDGs）の17の目標の達成に寄与しており、特に「6 安全な水を世界に」、「14 水産資源の保全」、「15 陸域生態系の保全」、「17 パートナリシップで目標を達成しよう」などの達成にも貢献しています。また、琵琶湖版SDGsであるマザーレイクゴールズ（MLGs）にも、大いに貢献しています。



農林水産業の魅力発信による担い手や関係人口の拡大



新 次世代に繋ぐ「学び」の推進

- ・学習教材の制作
- ・フローティングスクールとの連携
- ・ギャラリー展
- ・出前講座



新 情報発信プラットフォーム

- ・戦略的発信
(SNS、ホームページ)
- ・参加・交流型イベント



新 体感・体験ツアー

- ・農業漁業体験
- ・ワーケーション
- ・世界農業遺産メニュー



農林水産業の「ファン」の拡大

多様な担い手の確保

関係人口の増加

新 若者と農山村との「絆」の醸成

しがのふるさと応援隊事業

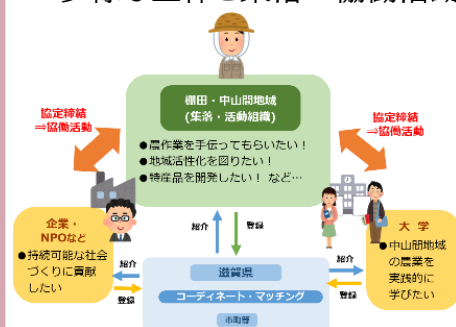
- ・農山村版ワーキングホリデー
- ・息の長い関係人口を創出
- ・北部の振興



農林業サポーター 応援隊として地域との継続的な関係を構築！

協働活動をプロデュース

しがのふるさと支え合いプロジェクト
・多様な主体と集落の協働活動



中山間地域の活性化、地域貢献の充実感を共有！

「お試し移住」

農山村の新生活様式サポート事業

- ・農山村移住情報を発信
- ・お試し移住から移住へ
- ・移住受入ガイド(仮)の作成



農業や地域活動に関わるライフスタイルを体験！

新しい時代には選ばれる農山村

県産品の消費拡大

次世代への引継ぎ

事業概要

国立環境研究所琵琶湖分室が設置されたことを契機として、共同研究や産学官金連携等による研究成果の活用・実用化を推進し、地方創生を図る。

共同研究

水・湖底環境の健全性評価に関する研究

- ◇溶存有機物や栄養塩類の生物利用性と動態解析
- ◇全層循環停止メカニズムの推定や底層溶存酸素量の変動因子の把握 等

⇒国立環境研究所で培われた新規手法を用いて、水環境、湖底環境の現状を評価し、琵琶湖の環境保全・再生につなげる。

<令和6年度>

- ◇栄養塩供給と微生物動態の関連評価
- ◇全層循環シミュレーション解析 等

在来魚類の回復に向けた研究

- ◇在来魚の繁殖・生息場所の解明
- ◇DNA種判別等を活用したモニタリング手法の開発 等

⇒生態系の保全・再生に向けた基礎データの取得につなげる。

<令和6年度>

- ◇在来魚の分布・移動に関する調査・解析 等

実用化を推進

しが水環境ビジネス推進フォーラム研究・技術分科会による技術開発等の推進

- ◇共同研究で活用された技術や研究成果、最新の技術的知見等の情報を共有
- ◇水環境技術の開発等を支援
- ◇滋賀発の水環境技術に係る製品・サービスのブランド化

⇒研究成果の水環境ビジネスへの活用、発信力の強化につなげる。
(水質測定機器の製品化、水処理技術の開発 等)

<令和6年度>

- ◇研究・技術分科会の運営
- ◇水環境技術ブランド化事業（プロダクト選定等）の運用
- ◇水環境技術の開発等に係る支援制度（補助金）の運用



サイエンスエコビジネスの推進に向けた検討

- ◇科学的な知見を活用する「サイエンスエコツアー」の実施に係る課題整理
- ◇ガイド等の人材の掘り起こし、育成
- ◇サイエンスエコツアープログラムの検討、試行

⇒地域の自然資源や環境の保全と活用を両立した経済活動として、サイエンスエコビジネスの推進につなげる。

<令和6年度>

- ◇ガイド人材等の育成に係る事業の実施
- ◇サイエンスエコツアーのプログラム開発・試行 等



(イメージ)

1. マザーレイクゴールズ（MLGs）とは

MLGsは、「琵琶湖」を切り口とした2030年の持続可能社会へ向けた目標（ゴール）です。MLGsは「琵琶湖版のSDGs」として、2030年の環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環の構築に向け、独自に13のゴールを設定しています。



MLGsを通じてSDGsをアクションに落とし込む



MLGsを通じて自分たちの取組がSDGsにつながっていることに気付く

2. MLGs達成に向けた事業

○MLGsの発信・広報

- ・ MLGs賛同者の募集
(1,681者：令和6年8月16日時点)
- ・ 賛同者によるロゴマークの活用
(295件：令和6年3月31日時点)
- ・ MLGs WEB（MLGs専用サイト）やSNS, YouTubeでの発信
- ・ 学生のライター起用
- ・ 人気動画クリエイター出演の啓発動画の作成発信
- ・ 学校や企業等からの依頼によるMLGs講演会の開催
- ・ MLGsツーリズム教材の作成と発信
- ・ MLGsワークショップの開催
- ・ MLGs広報大使との連携事業
(MLGs体操、伊藤三し米プロジェクト)
- ・ 関係団体とのMLGsボードゲームの作成プロジェクト
- ・ ショッピングモール等と連携した催事・展示イベント



MLGs WEB TOP画面

○MLGsの進行管理

- ・ 学術フォーラムによるMLGsの評価
- ・ 「MLGsみんなのBIWAKO会議」における様々な関係者とのMLGsの評価の共有



MLGs みんなのBIWAKO 会議/COP2